

機関投資家はサステナビリティ情報開示を どのように投資意思決定に役立てるか

堀井 浩之 CMA
小野 謙一郎 CMA・CIIA

目 次

- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 投資家におけるサステナビリティ情報の重要性向上 2. 当社におけるサステナビリティ情報の活用例 3. サステナビリティ情報開示がもたらす企業と投資家へのメリット | <ol style="list-style-type: none"> 4. サステナビリティ情報開示に対するさらなる期待 5. おわりに |
|---|--|

サステナビリティの概念は様々な主体において説明がなされているが、本稿では日本版スチュワードシップ・コードにおける「ESG要素を含む中長期的な持続可能性」との整理に基づき、三井住友トラスト・アセットマネジメントにおけるサステナビリティ情報（ESG情報）の具体的な活用事例を紹介するとともに、サステナビリティ情報の有用性および将来展望を考察する。

1. 投資家におけるサステナビリティ情報の重要性向上

昨今、社会や環境との関係におけるサステナビリティ（持続可能性）が企業経営の課題としてクローズアップされている。「経済活動の前提とし

て社会があり、さらに社会が成り立つ前提として環境がある」という考えが浸透してきた今日、サステナビリティに関するマテリアリティ（重要課題）を考慮した経営が企業存続の必須要件と言っても過言ではない。また、サステナビリティに関するリスクや機会は、短期的には影響が顕在化し



堀井 浩之（ほりい ひろゆき）

三井住友トラスト・アセットマネジメント(株) 専務執行役員 チーフ・サステナビリティ&ストラテジー・オフィサー。1988年早稲田大学理工学部卒業。山一証券経済研究所、住友信託銀行（現三井住友信託銀行）を経て、2022年4月より現職。ESG情報開示研究会理事、日本サステナブル投資フォーラム理事などを兼職。



小野 謙一郎（おの けんいちろう）

三井住友トラスト・アセットマネジメント(株) スチュワードシップ推進部 共同チーフ・スチュワードシップ・オフィサー。国内系投資信託会社に入社後、ファンドマネジャー、運用企画業務を担当。2012年より株式パッシブ戦略の運用執行役。現在、全社的なESGビジネスやサステナブル投資の推進を主に担当。国際公認投資アナリスト（CIIA）。